

・大学機関別認証評価の指摘事項の改善状況（令和3年度）

改善・向上が必要と確認された事項			対応計画	計画の実施 主体	計画の 進捗状況
年月	内容	根拠			
令和 4年 3月	教育学研究科博士課程共同教科開発学専攻において、実入学者数が入学定員を大幅に上回っている。	令和3年度 大学機関別 認証評価	令和4年度第1回愛知教育大学共同教科開発学専攻会議において、令和4年度実施入学者選抜で入学定員を遵守することを専攻会議構成員で確認し、入試に臨んだ。 令和4年度は、本学に籍を置く入学定員（4名）を大きく超える12名の出願があったが、厳正な審査の結果、5名を合格者とした。全員が令和5年4月入学した。	共同教科開発 学専攻会議	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()
令和 4年 7月	改組後のシラバスについては、書式は統一されているとはいえ、学生の到達目標や成績評価基準の記述が曖昧な科目があり、記述内容についても科目ごとの精粗がある。「カリキュラム・チェックリスト」を積極的に活用する等、教員間でシラバスの記載方法について調整することが必要であるとする。	令和2年度 教職大学院 認証評価	成績評価の基準性について、これまで教育学研究科学生便覧においては、素点と評語の対応関係のみしか記載されていなかったが、令和4年度からは、同便覧において、評価の基準を文章で示すこととした。例えば、評価「S」については、「90点以上到達目標を達成し、特に優秀な成績を修めている」、評価「C」については、「60点以上70点未満 到達目標を最低限達成している」のように明確化した。 令和5年6月30日に全学FD集会を開催し、教職大学院における成績評価基準等を適正化するため、過去の評価のデータをもとに、授業評価についてグループ・ディスカッションなどを通して議論を進め、今後の評価の方向性を確認した。 令和5年度の共通科目の成績評価においては、適切に分布していることが窺えた。 なお、令和5年度授業開始前に教職大学院の共通科目のシラバスチェックを行い、各授業の到達目標や成績評価基準等の項目について、明確に記載されていることを確認した。	大学院運営委 員会	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()
令和 4年 7月	各授業科目の成績評価に関しては、S評価の割合が非常に高く、シラバスにおいても、到達目標や評価基準、評価の観点等の記載方法に統一性がなく、記載内容が曖昧な科目がある。現職教員学生と学部新卒学生の到達目標・評価基準の差にも配慮しつつ、成	令和2年度 教職大学院 認証評価	令和2・3年度の2年分の成績評価結果（科目ごとのGPの平均値及び標準偏差のサイズ分類表）から、教職大学院の授業科目における成績分布は、SとAに分布が集中している状況にあることがわかった。	大学院運営委 員会	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他

	<p>績評価基準のあり方や、シラバスの「評価基準・方法」等の記載内容が平準化されるよう、教員間で合意形成を図ることが必要であると考える。</p>	<p>令和5年6月30日に全学FD集会を開催し、教職大学院における成績評価基準等を適正化するため、過去の評価のデータをもとに、授業評価についてグループ・ディスカッションなどを通して議論を進め、今後の評価の方向性を確認した。</p> <p>令和5年度の共通科目（授業科目数 12）の総受講者数 694 名のうち、棄権及び取消を除いた 691 名の成績評価を集計したところ、各評定の割合は、S評価 17.7%、A評評価 53.0%、B評価 23.3%、C評価 4.1%、D評価 2.0%（※いずれも小数点以下第2位四捨五入）となっており、概ね適切な成績分布となっていることが窺えた。</p>	<p>()</p>
--	--	---	------------